

答え合わせ・解説

問1	答え 4 遣唐使	遣唐使は、天皇の命を受けて唐へ派遣された公式の外交使節団です。留学生や僧侶も同行し、帰国して新しい仏教（密教）や学問、技術を日本に持ち帰りました。しかし、894年に菅原道真の建議により停止されるまで、多くの人々が命がけで海を渡りました。これにより、日本は当時の東アジアの先端文化を吸収し、発展の礎を築くことができました。
問2	答え 2 紫式部	紫式部は藤原道長の娘に仕えた女房であり、宮廷社会の複雑な恋愛や人間模様を描いた長編小説『源氏物語』を執筆しました。当時の貴族の優雅な生活や、内面的な感情まで細やかに描き出したこの作品は、日本文学の最高峰とされています。
問3	答え 3 空海	空海は遣唐使として唐へ渡り、恵果から密教の教えを授かりました。帰国後、嵯峨天皇から京都の教王護国寺（東寺）を賜るとともに、和歌山県の高野山を修行の拠点として真言宗を開きました。密教は、経典の言葉だけでは表せない深い教えを、仏像や曼荼羅、印や真言などを使って表現するのが特徴です。
問4	答え 1 藤原道長	藤原道長は、娘を次々と天皇の妃として入内させることで、天皇の外戚として揺るぎない地位を確立しました。この強力な血縁関係を武器に、政治の決定権を独占し、藤原氏による統治の最盛期を現出させました。
問5	答え 3 紫式部	紫式部は、藤原道長の娘に仕えながら、『源氏物語』を執筆しました。この物語は、主人公である光源氏の栄華と没落を通して、人間の心理や当時の貴族社会を克明に描き出しました。
問6	答え 1 院庁	院庁は、院政における実務的な行政機関であり、上皇の意志を国家政策として実行する役割を持ちました。ここで出される命令は「院宣」と呼ばれ、強い権力を持っていました。組織として整備されることで、摂関政治とは異なる独自の政治体制が確立されました。
問7	答え 1 藤原頼通	藤原頼通は、摂政・関白として約50年間政治の実権を握りました。当時、貴族たちの間では自分の財力や権力を誇示しつつ、極楽浄土に往生したいという切実な願いがありました。頼通はそれに応えるように、京都の宇治の地に壮大な平等院鳳凰堂を建立し、阿弥陀如来像を安置させました。
問8	答え 2 藤原道長	藤原道長は、四人の娘を次々と天皇の后とすることで、揺るぎない地位を築きました。自身が摂政や関白になることもありましたが、それ以上に天皇の外戚という立場で朝廷を掌握しました。彼が詠んだ歌は、自身の権勢が満月のように欠けるところがないと誇る自信に満ちたものです。
問9	答え 4 摂政	摂政は天皇が幼少の際に代理として政治を行う役職であり、成人後は関白として補佐しました。藤原氏は一族から天皇の后を出すことでこの地位を世襲し、朝廷の政治を思いのままに動かしました。
問10	答え 2 藤原純友	藤原純友は、瀬戸内海を拠点とする海賊のリーダーとして勢力を持ち、朝廷に対して反旗をひるがえしました。同時期に関東で平将門が起こした乱と合わせて「承平・天慶の乱」と総称されます。海と陸の二大拠点で同時に反乱が起きたことは、朝廷の地方支配の弱体化を如実に示しました。
問11	答え 1 北面の武士	白河上皇が御所の北側に部屋を設けて警護させたことから「北面の武士」と呼ばれます。彼らは単なる警備員ではなく、実力行使の手段として上皇の信頼を受け、次第に政治的な発言力を持つようになりました。
問12	答え 1 厳島神社	平氏一族は、安芸国にある厳島神社を厚く信仰し、社殿を豪華に造り替えました。海に浮かぶようなその姿は、当時の建築技術の高さと、貴族化した平氏の優雅な文化を今に伝えています。
問13	答え 1 徴税権	10世紀頃、朝廷は国司に一定額の税収を保証させる代わりに、徴税権や地方の行政権を大幅に委譲しました。これにより国司は現地の経済を支配し、大きな利益を得られるようになりました。
問14	答え 1 東北地方	東北地方には、朝廷の支配に従わない人々が生活しており、朝廷側は彼らを「蝦夷」と呼んで服属させようとしていました。朝廷は多賀城などの拠点を作り、軍事的に征討を試みましたが。
問15	答え 4 国司	国司は地方の政治や徴税を一手に引き受ける地方官です。この職に就くことは、地方の富を吸収できるため、貴族たちにとって大変うまみのあるポストとされていました。
問16	答え 4 新皇	平将門は勢力範囲を支配下におくと、朝廷から認められない権力として、あえて「新皇」という称号を名乗りました。これは単なる地方の反乱を超え、中央政府である朝廷に対する真っ向からの挑戦を意味していました。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 遣唐使	遣唐使は7世紀から9世紀にかけて、朝廷が中国へ送った外交使節団です。空海や最澄ら多くの僧侶や留学生が渡り、仏教の教えや政治制度、芸術などを持ち帰りました。これにより日本の社会や文化は大きな影響を受けました。
問2	答え 1 浄土教美術	浄土教美術は、阿弥陀如来や極楽浄土の華やかな世界を絵画、彫刻、建築に込めた芸術です。平等院鳳凰堂の内部にある華麗な障壁画や、阿弥陀如来坐像などは、当時の最高の職人や芸術家によって作られました。繊細な装飾や美しい色彩は、平安貴族の優雅で洗練された文化を象徴しています。
問3	答え 2 清少納言	清少納言は、中宮定子に仕える中で見聞きしたことや、四季の美しさなどを鋭い観察眼で書き記しました。これが日本最古の随筆である『枕草子』です。理知的な文体と、当時の宮廷社会の様子を描いた内容が特徴です。
問4	答え 3 空海	空海は唐で密教を学び、帰国後に真言宗を開きました。密教とは、高度な修行と儀式を重んじる仏教の宗派です。彼は嵯峨天皇から高野山を下賜され、そこに金剛峯寺を建立して修行の拠点としました。多くの弟子を育て、学問の面でも大きな足跡を残しました。
問5	答え 1 院庁	院庁は、院政における実務的な行政機関であり、上皇の意志を国家政策として実行する役割を持ちました。ここで出される命令は「院宣」と呼ばれ、強い権力を持っていました。組織として整備されることで、摂関政治とは異なる独自の政治体制が確立されました。
問6	答え 1 藤原道長	藤原道長は、娘を次々と天皇の妃として入内させることで、天皇の外戚として揺るぎない地位を確立しました。この強力な血縁関係を武器に、政治の決定権を独占し、藤原氏による統治の最盛期を現出させました。
問7	答え 4 摂政	摂政は天皇が幼い間に代わって政務を行い、天皇が成人した後も補佐する役割として「関白」が置かれました。これら一連の政治形態を摂関政治と呼びます。藤原氏は代々この地位を独占し、天皇をしのぐ権力を握りました。
問8	答え 3 遣唐使の廃止	894年、朝廷で活躍した菅原道真の建議により、遣唐使の派遣は停止されました。この決定により、それまで唐から学んでいた制度や文化の影響が弱まり、日本独自の「国風文化」が発展する契機となりました。
問9	答え 2 紫式部	紫式部は藤原道長の娘に仕えた女房であり、宮廷社会の複雑な恋愛や人間模様を描いた長編小説『源氏物語』を執筆しました。当時の貴族の優雅な生活や、内面的な感情まで細やかに描き出したこの作品は、日本文学の最高峰とされています。
問10	答え 1 藤原頼通	藤原頼通は、摂政・関白として約50年間政治の実権を握りました。当時、貴族たちの間では自分の財力や権力を誇示しつつ、極楽浄土に往生したいという切実な願いがありました。頼通はそれに応えるように、京都の宇治の地に壮大な平等院鳳凰堂を建立し、阿弥陀如来像を安置させました。
問11	答え 2 武士	武士は、自らの土地や一族の生活を守るために武装した、地方の豪族や有力者たちです。彼らは互いに団結して武士団を形成し、朝廷の命を受けて反乱の鎮圧などを担うことで、次第に力を蓄えていきました。
問12	答え 3 紫式部	紫式部は、中宮彰子に仕える女房として宮廷で生活しながら、全54帖からなる『源氏物語』を執筆しました。この作品は、貴族社会の人間模様や恋愛、栄枯盛衰を細やかに描いた世界文学の傑作です。また、彼女が日々の生活や宮中の様子を書き留めた『紫式部日記』も、当時の歴史を知るための貴重な資料となっています。
問13	答え 1 北面の武士	白河上皇が御所の北側に部屋を設けて警護させたことから「北面の武士」と呼ばれます。彼らは単なる警備員ではなく、実力行使の手段として上皇の信頼を受け、次第に政治的な発言力を持つようになりました。
問14	答え 1 厳島神社	平氏一族は、安芸国にある厳島神社を厚く信仰し、社殿を豪華に造り替えました。海に浮かぶようなその姿は、当時の建築技術の高さと、貴族化した平氏の優雅な文化を今に伝えています。
問15	答え 1 法華経	法華経は、天台宗が最も重視する経典で、「すべての人は平等に救われ、仏になることができる」という教えを説いています。最澄はこの経典に基づき、人々に正しい修行と理解を求めました。この包摂的な教えは、特定の僧侶だけでなく、多くの人々に仏教の門戸を開く役割を果たしました。
問16	答え 4 平清盛	清盛は日宋貿易を積極的に進め、経済的な力を高めました。航海の安全を祈願して、瀬戸内海の厳島神社を厚く信仰し、豪華な社殿を整備しました。平氏の権力は全盛を迎え、一族で朝廷の高位を独占するまでになりました。

問1 平安時代に遣唐使の廃止などを背景に栄えた、日本の風土に合わせた独自の文化を何という？

1. 国風文化 2. 天平文化 3. 室町文化 4. 鎌倉文化

問2 平安時代中期に、貴族社会を題材とした長編物語『源氏物語』を執筆した女性作家は誰？

1. 清少納言 2. 紫式部 3. 和泉式部 4. 菅原孝標女

問3 平安時代初期に、唐で密教を学んで帰国し、高野山を拠点として真言宗を開いた僧は誰？

1. 最澄 2. 聖武天皇 3. 空海 4. 行基

問4 平泉の奥州藤原氏が、極楽浄土を表現するために建立した金箔の仏堂を何という？

1. 中尊寺金色堂 2. 平等院鳳凰堂 3. 法隆寺金堂 4. 東大寺大仏

問5 娘を天皇の后にして天皇の親戚となり、藤原氏の全盛期を築いた人物は誰？

1. 藤原道長 2. 藤原頼通 3. 藤原良房 4. 藤原基経

問6 摂関政治の全盛期に「望月の歌」を詠み、栄華を極めた人物は誰？

1. 藤原道長 2. 藤原基経 3. 藤原良房 4. 藤原頼通

問7 国風文化の発展を支えた、漢字を簡略化して作られた文字を何という？

1. カタカナ 2. 梵字 3. かな文字 4. 漢字

問8 平安時代中期に、地方の統治や徴税などの実務を一任された地方官を何という？

1. 郡司 2. 目代 3. 太宰帥 4. 国司

問9 平安時代初期、地方政治の立て直しを図り、国司への監督を強化した天皇は誰？

1. 桓武天皇 2. 後醍醐天皇 3. 天武天皇 4. 聖武天皇

問10 平安時代末期、朝廷による平定が進んだ東北地方で、独自の勢力を築き上げた一族を何という？

1. 藤原北家 2. 奥州藤原氏 3. 平氏 4. 蘇我氏

問11 平安時代に、地方に赴任せずに京に留まったまま役職だけを持つ国司のことを何という？

1. 掾 2. 受領 3. 介 4. 遙任

問12 国風文化のなかで、漢字を簡略化して作られた文字を何という？

1. カタカナ 2. 漢字 3. 梵字 4. 仮名文字

問13 平安時代に地方政治の乱れに乗じて力をつけ、やがて中央政治にも影響を与えた存在を何という？

1. 僧侶 2. 武士 3. 貴族 4. 農民

問14 空海が開いた高野山の金剛峯寺が総本山である、平安時代に広まった仏教の宗派を何という？

1. 法相宗 2. 浄土宗 3. 真言宗 4. 天台宗

問15 平安時代初期に、唐から真言宗を持ち帰り、金剛峯寺を建立した僧は誰？

1. 最澄 2. 円仁 3. 空海 4. 円珍

問16 794年に山背国へ平安京を遷都し、奈良時代の政治を立て直そうとした天皇は誰？

1. 嵯峨天皇 2. 桓武天皇 3. 光仁天皇 4. 聖武天皇

答え合わせ・解説

問1	答え 1 国風文化	国風文化は、平安時代の中頃から後半にかけて貴族を中心に発達した文化です。それまでの唐風の文化から脱却し、日本の自然や風土、日本人の心情に適した形へと発展しました。仮名文字の発明により、文学や芸術が非常に豊かになったのが特徴です。
問2	答え 2 紫式部	紫式部は藤原道長の娘に仕えた女房であり、宮廷社会の複雑な恋愛や人間模様を描いた長編小説『源氏物語』を執筆しました。当時の貴族の優雅な生活や、内面的な感情まで細やかに描き出したこの作品は、日本文学の最高峰とされています。
問3	答え 3 空海	空海は遣唐使として唐へ渡り、恵果から密教の教えを授かりました。帰国後、嵯峨天皇から京都の教王護国寺（東寺）を賜るとともに、和歌山県の高野山を修行の拠点として真言宗を開きました。密教は、經典の言葉だけでは表せない深い教えを、仏像や曼荼羅、印や真言などを使って表現するのが特徴です。
問4	答え 1 中尊寺金色堂	中尊寺金色堂は、建物の内外を金箔で覆った非常に豪華な造りです。奥州藤原氏の財力を象徴するだけでなく、戦乱の絶えない現世を離れ、平和な極楽浄土を地上に再現しようという願いが込められています。
問5	答え 1 藤原道長	藤原道長は、娘を次々と天皇の妃として入内させることで、天皇の外戚として揺るぎない地位を確立しました。この強力な血縁関係を武器に、政治の決定権を独占し、藤原氏による統治の最盛期を現出させました。
問6	答え 1 藤原道長	藤原道長はその摂関政治の頂点に立った人物です。娘の彰子を一条天皇の中宮にするなど、一族の女性を権力の中核に送り込みました。「この世をば…」で始まる望月の歌は、彼が自身の権力の絶頂期を月になぞらえて詠んだものとして非常に有名です。
問7	答え 3 かな文字	漢字の草書体を簡略化した「ひらがな」や、漢字の一部をとった「カタカナ」が普及しました。これにより、複雑な漢字を使わずに和歌や日記、物語などを自由に書けるようになり、文学表現の幅が大きく広がりました。
問8	答え 4 国司	国司は地方の政治や徴税を一手に引き受ける地方官です。この職に就くことは、地方の富を吸収できるため、貴族たちにとって大変うまみのあるポストとされていました。
問9	答え 1 桓武天皇	桓武天皇は長岡京を経て平安京へ都を移し、国家の立て直しを行いました。地方行政の主役である国司を中央から厳しく監視し、不正を防ごうとしました。また、蝦夷の平定にも力を注ぎました。
問10	答え 2 奥州藤原氏	奥州藤原氏は、藤原清衡から始まる4代にわたる一族で、平泉を中心に強大な経済力と軍事力を持ちました。金などの産出や対外貿易によって莫大な富を蓄え、中尊寺金色堂に代表される華やかな文化を築きました。
問11	答え 4 遙任	遙任（ようにん）は、国司が自らは現地に行かず、代わりに代官である「目代（もくだい）」などを派遣して統治させる形態です。これにより国司は責任を回避しつつ収益だけを確保することができましたが、地方政治の腐敗を加速させる要因となりました。
問12	答え 4 仮名文字	仮名文字は、漢字の形をくずしたり、その一部を抜き出したりして作られた文字です。これにより、貴族たちは自分の感情を素直に表現できるようになり、和歌や物語の創作が盛んになりました。国風文化の発展を支えた最大の要因といえます。
問13	答え 2 武士	武士は、自らの土地や一族の生活を守るために武装した、地方の豪族や有力者たちです。彼らは互いに団結して武士団を形成し、朝廷の命を受けて反乱の鎮圧などを担うことで、次第に力を蓄えていきました。
問14	答え 3 真言宗	真言宗は、空海が唐から持ち帰った密教の教えに基づく宗派です。呪文や曼荼羅（まんだら）を用いて悟りを開くことを目指す点が大きな特徴です。高野山にある金剛峯寺は、現在も真言宗の総本山として広く知られており、当時の貴族たちからも厚い帰依を受けていました。
問15	答え 3 空海	空海は唐で密教を学び、帰国後に真言宗を開きました。密教とは、高度な修行と儀式を重んじる仏教の宗派です。彼は嵯峨天皇から高野山を下賜され、そこに金剛峯寺を建立して修行の拠点としました。多くの弟子を育て、学問の面でも大きな足跡を残しました。
問16	答え 2 桓武天皇	桓武天皇はまず長岡京への遷都を試みますが失敗し、その後794年に山背国（現在の京都）へ平安京を遷都しました。これにより、旧来の仏教勢力との結びつきを断ち切り、新たな環境で朝廷の威信を取り戻そうとしました。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 太政大臣	1167年に平清盛がこの地位に就きました。武士が朝廷の最高職に就くことは当時としては異例のことであり、平氏一族が貴族社会の中枢に深く入り込んだことを示しています。
問2	答え 1 院庁	院庁は、院政における実務的な行政機関であり、上皇の意志を国家政策として実行する役割を持ちました。ここで出される命令は「院宣」と呼ばれ、強い権力を持っていました。組織として整備されることで、摂関政治とは異なる独自の政治体制が確立されました。
問3	答え 4 新皇	平将門は勢力範囲を支配下におくと、朝廷から認められない権力として、あえて「新皇」という称号を名乗りました。これは単なる地方の反乱を超え、中央政府である朝廷に対する真っ向からの挑戦を意味していました。
問4	答え 1 後三条天皇	後三条天皇は、母が藤原氏出身ではない天皇として即位しました。記録荘園券契所を設置して延久の荘園整理令を出し、不正な荘園を廃止して朝廷の財源を確保しました。これにより、藤原氏の経済的基盤が揺らぎ始めました。
問5	答え 1 浄土教美術	浄土教美術は、阿弥陀如来や極楽浄土の華やかな世界を絵画、彫刻、建築に込めた芸術です。平等院鳳凰堂の内部にある華麗な障壁画や、阿弥陀如来坐像などは、当時の最高の職人や芸術家によって作られました。繊細な装飾や美しい色彩は、平安貴族の優雅で洗練された文化を象徴しています。
問6	答え 2 藤原道長	藤原道長は、四人の娘を次々と天皇の后とすることで、揺るぎない地位を築きました。自身が摂政や関白になることもありましたが、それ以上に天皇の外戚という立場で朝廷を掌握しました。彼が詠んだ歌は、自身の権勢が満月のように欠けるところがないと誇る自信に満ちたものです。
問7	答え 3 藤原頼通	藤原頼通は、権力の絶頂期にあった藤原道長の息子です。1052年、彼は父から譲り受けた京都・宇治の別荘を寺院へ改め、平等院を建立しました。これは、当時の貴族たちが願った極楽浄土の姿を現世に再現しようとする試みでした。
問8	答え 1 厳島神社	平氏一族は、安芸国にある厳島神社を厚く信仰し、社殿を豪華に造り替えました。海に浮かぶようなその姿は、当時の建築技術の高さと、貴族化した平氏の優雅な文化を今に伝えています。
問9	答え 3 紫式部	紫式部は、藤原道長の娘に仕えながら、『源氏物語』を執筆しました。この物語は、主人公である光源氏の栄華と没落を通して、人間の心理や当時の貴族社会を克明に描き出しました。
問10	答え 2 奥州藤原氏	奥州藤原氏は、豊かな金の産出や馬の取引、大陸との貿易などを通じて莫大な富を築きました。この富を背景に、平泉の地に壮大な寺院群を建立し、仏教文化を花開かせました。
問11	答え 3 大宰府	道真の急激な昇進に嫉妬した藤原氏などの貴族によって、道真は無実の罪を着せられ、九州の大宰府へ左遷されました。道真はそこで失意のうちに亡くなりましたが、その後、都では道真の怨霊の仕業とされる天災や異変が相次ぎました。
問12	答え 4 9世紀末	894年、菅原道真の建議により遣唐使は停止されました。これにより、大陸からの直接的な影響が減り、日本の風土や日本人の感性に合った文化が育まれるようになりました。これが国風文化の始まりです。
問13	答え 1 清少納言	清少納言は、中宮定子に仕えた女房です。彼女の代表作『枕草子』は、「春はあけぼの」という有名な書き出しで始まる随筆です。宮廷生活の中での出来事や、自然の美しさに対する鋭い観察眼と、彼女自身の機知に富んだ考え方がユーモアを交えてつづられています。当時の貴族社会の価値観や美的センスを知るための極めて重要な資料です。
問14	答え 4 国司	国司は地方の政治や徴税を一手に引き受ける地方官です。この職に就くことは、地方の富を吸収できるため、貴族たちにとって大変うまみのあるポストとされていました。
問15	答え 4 白河上皇	白河上皇は1086年に天皇の位を子に譲り、自らは上皇となって政治を執り行いました。これを「院政」といいます。これにより、摂関家ではなく天皇や上皇が権力の中心となりました。
問16	答え 1 関白	「摂政」は天皇が幼少の時に代わって政治を行い、「関白」は天皇が成人した後に政治を補佐する役割を持つ役職です。藤原氏はこれらの役職を独占することで、天皇を陰から操り、朝廷での最高権力者として君臨しました。これが摂関政治の仕組みです。

問1 『源氏物語』を書き、平安時代の国風文化を代表する女性作家は誰？

1. 和泉式部 2. 菅原孝標女 3. 紫式部 4. 清少納言

問2 平安時代中期、貴族の邸宅として発展した日本独自の建築様式を何という？

1. 国風文化 2. 室町文化 3. 鎌倉文化 4. 天平文化

問3 平安時代中期に、地方の統治や徴税などの実務を一任された地方官を何という？

1. 郡司 2. 目代 3. 太宰帥 4. 国司

問4 平安時代中期に『枕草子』を著し、宮廷生活の機微を描いた人物は誰？

1. 清少納言 2. 和泉式部 3. 紫式部 4. 小野小町

問5 天台宗において、あらゆる人が救われるという教えの中心となっている経典を何という？

1. 法華経 2. 大日経 3. 金剛経 4. 阿弥陀経

問6 平安時代後期に院政を最初に始めた上皇は誰？

1. 白河上皇 2. 後白河上皇 3. 後鳥羽上皇 4. 鳥羽上皇

問7 939年、関東地方を拠点として朝廷に反旗をひるがえした武士は誰？

1. 藤原純友 2. 藤原秀郷 3. 平将門 4. 平貞盛

問8 平安時代に、地方に赴任せず京に留まったまま役職だけを持つ国司のことを何という？

1. 掾 2. 受領 3. 介 4. 遙任

問9 平安時代初期に唐から天台宗を伝え、比叡山に延暦寺を開いた人物は誰？

1. 最澄 2. 日蓮 3. 親鸞 4. 空海

問10 平安時代、地方の政治が乱れる大きな原因の一つとなった制度の廃止を何という？

1. 遣唐使廃止 2. 平城京遷都 3. 長岡京遷都 4. 大化の改新

問11 平安時代初期、朝廷の支配が及びにくかった日本の北東部地域を何という？

1. 東北地方 2. 四国地方 3. 九州地方 4. 近畿地方

問12 遣唐使の停止を建議した後、政争に巻き込まれて左遷された先はどこ？

1. 多賀城 2. 平安京 3. 大宰府 4. 平城京

問13 平安時代に国風文化が発展するきっかけとなった、中国へ使者を送る制度の終了を何という？

1. 遣唐使の廃止 2. 壬申の乱 3. 大化の改新 4. 承久の乱

問14 摂関政治を抑制し、独自の権力を取り戻そうとした天皇は誰？

1. 醍醐天皇 2. 村上天皇 3. 白河天皇 4. 後三条天皇

問15 空海が唐で学んだ密教を日本に広めるために金剛峯寺を建立した際、唐へ渡った制度を何という？

1. 遣唐使 2. 遣渤海使 3. 遣新羅使 4. 遣隋使

問16 平安時代末期、武士として初めて任命された最高位の官職を何という？

1. 内大臣 2. 右大臣 3. 太政大臣 4. 左大臣

答え合わせ・解説

問1	答え 3 紫式部	紫式部は、藤原道長の娘に仕えながら、『源氏物語』を執筆しました。この物語は、主人公である光源氏の栄華と没落を通して、人間の心理や当時の貴族社会を克明に描き出しました。
問2	答え 1 国風文化	国風文化は、仮名文字の普及による文学の発展や、独自の美的感覚を反映した建築、絵画（大和絵）などが特徴です。日本人の心情や感性を豊かに表現したこの文化は、当時の貴族社会のあり方を象徴するものとなりました。
問3	答え 4 国司	国司は地方の政治や徴税を一手に引き受ける地方官です。この職に就くことは、地方の富を吸収できるため、貴族たちにとって大変うまみのあるポストとされていました。
問4	答え 1 清少納言	清少納言は、中宮定子に仕えた女房です。彼女の代表作『枕草子』は、「春はあけぼの」という有名な書き出しで始まる随筆です。宮廷生活の中での出来事や、自然の美しさに対する鋭い観察眼と、彼女自身の機知に富んだ考え方がユーモアを交えてつづられています。当時の貴族社会の価値観や美的センスを知るための極めて重要な資料です。
問5	答え 1 法華経	法華経は、天台宗が最も重視する經典で、「すべての人は平等に救われ、仏になることができる」という教えを説いています。最澄はこの經典に基づき、人々に正しい修行と理解を求めました。この包摂的な教えは、特定の僧侶だけでなく、多くの人々に仏教の門戸を開く役割を果たしました。
問6	答え 1 白河上皇	白河上皇は1086年に院政を開始しました。上皇は自分の屋敷である「院」に院庁という機関を設け、天皇に代わって国の重要事項を決定しました。これにより、有力な貴族ではなく上皇が政治の主導権を握るようになりました。
問7	答え 3 平将門	平将門は、関東の有力者として朝廷の支配に対して反乱を起こしました。勢力を拡大した将門は、自らを「新皇」と名乗り、独立した政権の樹立を目指しました。この乱は、当時の朝廷に大きな衝撃を与えました。
問8	答え 4 遙任	遙任（ようにん）は、国司が自らは現地に行かず、代わりに代官である「目代（もくだい）」などを派遣して統治させる形態です。これにより国司は責任を回避しつつ収益だけを確保することができましたが、地方政治の腐敗を加速させる要因となりました。
問9	答え 1 最澄	最澄は唐へ渡り、天台宗を学んで帰国しました。比叡山に延暦寺を建立し、厳しい修行を通じて多くの高僧を育てました。また、大乘仏教の戒律を授けるための「大乘戒壇」の建立を目指しました。
問10	答え 1 遣唐使廃止	894年の遣唐使廃止によって日本は中国との公的な外交関係を絶ちました。これにより、中央政府の関心は外交から国内統治へと向かいましたが、地方へ派遣された国司たちが現地に赴かず、京に留まって私腹を肥やすといった政治の腐敗が目立つようになりました。
問11	答え 1 東北地方	東北地方には、朝廷の支配に従わない人々が生活しており、朝廷側は彼らを「蝦夷」と呼んで服属させようとしてきました。朝廷は多賀城などの拠点を作り、軍事的に征討を試みましたが。
問12	答え 3 大宰府	道真の急激な昇進に嫉妬した藤原氏などの貴族によって、道真は無実の罪を着せられ、九州の大宰府へ左遷されました。道真はそこで失意のうちに亡くなりましたが、その後、都では道真の怨霊の仕業とされる天災や異変が相次ぎました。
問13	答え 1 遣唐使の廃止	遣唐使の廃止は、中国の文化に直接頼る時代から脱却する転換点となりました。これにより、日本の風土や生活に合わせた独自の文化が重視されるようになりました。
問14	答え 4 後三条天皇	後三条天皇は、母が藤原氏の出身ではなかったため、藤原氏の影響をあまり受けずに即位しました。彼は藤原氏の干渉を排除して政治を行うため、記録荘園整理令などの政策を打ち出し、天皇中心の政治を復活させようとしてきました。この動きが、のちの院政へとつながる重要な転換点となりました。
問15	答え 1 遣唐使	遣唐使は7世紀から9世紀にかけて、朝廷が中国へ送った外交使節団です。空海や最澄ら多くの僧侶や留学生が渡り、仏教の教えや政治制度、芸術などを持ち帰りました。これにより日本の社会や文化は大きな影響を受けました。
問16	答え 3 太政大臣	1167年に平清盛がこの地位に就きました。武士が朝廷の最高職に就くことは当時としては異例のことであり、平氏一族が貴族社会の中枢に深く入り込んだことを示しています。